

環境経営レポート

(2017年版 エコアクション21ガイドライン対応)



「きれいだね、きれいにしているね」
をモットーに
「環境に優しいものづくり」
を推進します



【 2024年度版 】

対象期間 (2024年5月～2025年4月)

発行日 2025年 6月27日
改訂日 2025年 7月21日



株式会社カワサキ

目 次

項 目	ペー ジ
1. 組織の概要	P1～P2
2. 実施体制及び対象範囲	P3
3. 環境経営方針	P4
4. 環境経営目標	P5～P7
5. 環境経営計画	P8～P10
6. 環境経営目標に対する実績	P11～P12
7. 環境経営活動取組結果の評価と次年度の取組内容	P13～P15
8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無	P16
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P17～P18

1. 組織の概要

(1) 会社名及び代表者

株式会社 カワサキ

代表取締役 川崎 智之

(2) 所在地

本社	名古屋市昭和区福江二丁目7番23号
瀬戸日の出第1工場	瀬戸市日の出町28番地
瀬戸日の出第2工場	瀬戸市日の出町30番地
瀬戸日の出第3工場	瀬戸市日の出町19番地

(3) 会社概要

売上金(加工費ベース)672百万円(2024年度 第1工場537百万円、第3工場135百万円)

資本金 30百万円

事業年度 5月1日～4月30日

人員、規模等(2025年5月1日現在)

	本社	瀬戸日の出第1工場	瀬戸日の出第2工場	瀬戸日の出第3工場	合計
従業員	2	36	5	28	71
パート等	0	0	0	0	0
敷地面積	—	2141.87m ²	947.56m ²	1305.17m ²	4394.6m ²

主要取引先

(株)鳴海合金製作所、アイシングループ各社、テクノエイト(株)、リンナイ(株)、

他30社以上

(4) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 製造部QE係 参事 各務 鋼

連絡先

本社 TEL 052-881-9223 FAX 052-881-9291

瀬戸日の出第1工場 TEL 0561-86-8886 FAX 0561-86-8889

e-mail : kakumu@kawasaki-paint.co.jp

(5) 沿革

創業 1956年1月(昭和31年)

設立 1974年10月1日(昭和49年)

2010年10月(平成22年)瀬戸日の出第1工場稼動

2012年7月(平成24年)エコアクション21認証取得

2012年12月(平成24年)瀬戸市「環境に優しい事業所」認証取得

2014年6月(平成26年)瀬戸日の出第2工場新塗装ライン(粉体)稼動

2015年2月(平成27年)瀬戸日の出第2工場新(環境配慮型)前処理ライン稼動

2017年7月(平成29年)瀬戸日の出第3工場稼動(アルミ自動車部品専門工場)

2019年2月(平成31年)シリカ系コーティング開始(瀬戸日の出第3工場)

2021年2月末(令和3年)をもって瀬戸日の出第2工場の生産活動を休止

2022年5月資本金を3000万円に増資

2025年1月(令和7年)瀬戸日の出第2工場粉体塗装ラインの生産活動を再開

(6) 事業内容

- ガス器具部品、自動車部品、弱電部品、遊戯機等の金属塗装・プラスチック塗装
- ・カチオン電着塗装 ・静電塗装 ・アルミ素材への前処理及び電着塗装、吹付塗装
 - ・各種溶剤吹付塗装 ・樹脂塗装 ・粉体塗装



(当社の特長)

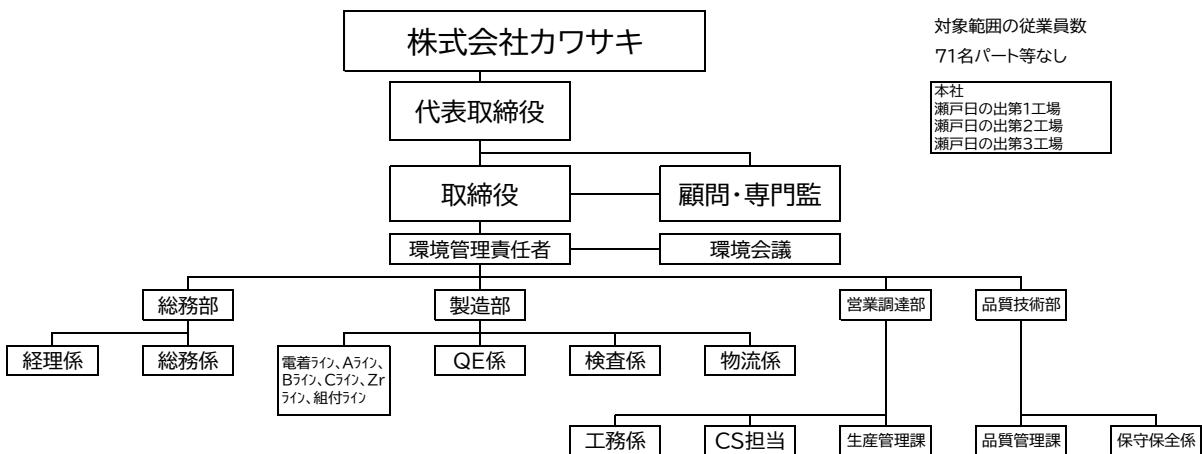
- ①カチオン電着ラインと静電塗装ラインが併設することにより
同一工場内での下塗りから上塗りまでの一貫工程が可能となっています。
従って、工程別に複数の業者に発注する必要がなくコスト削減、納期短縮
が実現出来ます。
- ②新しく従来の溶剤塗装に加えガラスコート[®]塗装ラインの導入により顧客の
幅広いニーズへの対応が可能となりました。金属製品のみならず美粧、
耐久性向上、特殊機能付与等を目的とした、プラスチック素材への塗装も
行っており、「塗装のオールラウンドプレーヤー」としての生産体制を
構築しています

2. 実施体制及び対象範囲

「環境に優しいものづくりの推進」

(1) 環境マネジメント組織図

(2025年 5月現在)



(2) 職務権限

代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システム(EA21)の実施に必要な資源の確保と提供 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定、見直し・指示を全従業員に周知 ・環境経営目標、環境経営活動計画の承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示 ・環境経営活動レポートの承認
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システム(EA21)の構築、実施、管理、維持 ・環境経営システム(EA21)の実施状況及び改善の必要性の有無を代表者に報告 ・環境関連法規制等の遵守確認 ・環境経営活動レポートの作成 ・環境経営会議の開催 ・環境経営システム(EA21)に係る手順書の作成 ・環境経営システム(EA21)の運用、維持に係る各部門への支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営目的、環境経営目標の策定 ・環境管理責任者の業務を補佐し、環境経営管理活動を展開する ・環境経営管理活動の展開を図る為、重要課題について対応策を検討し展開する
	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門における環境経営システム(EA21)の実施、運用 ・各部門における環境経営方針の周知と教育を推進 ・環境経営活動計画の実施及び状況を環境会議に報告 ・自部門の環境経営管理の実施、点検及び是正の指示を行う
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境問題への取組みの重要性を自覚 ・決められた手順と担当業務に適用される法規制・要求事項を遵守する

(3) 環境経営レポートの対象範囲

①本社、瀬戸日の出第1工場、第2工場、第3工場を対象とし対象期間は2024年5月1日から2025年4月30日までです。

(事業活動)

金属部品の溶剤塗装、カチオン電着塗装及び粉体塗装、樹脂部品の溶剤塗装

②次年度は2025年5月1日～2026年4月30日までを対象とし、同年6月上旬までに作成する予定です

③本社は環境負荷が少ないため環境目標(数値目標)は設定なし。但し節水、節電、コピー用紙削減等の環境活動は実施する。

④第2工場は2025年1月から粉体塗装ラインが稼働を再開した。2025年度は環境データの把握を行い次期中期経営計画を開始する。2026年度より他工場と一緒に環境経営活動を推進する。

3. 環境経営方針

株式会社 カワサキ 環境経営方針

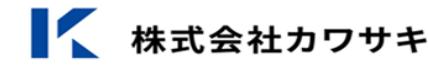
基本理念

私たち株式会社カワサキは、事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献出来る活動を通じて地球温暖化への対応や資源の有効利用に向けて全員で取組み、環境に優しいものづくりの推進により地球環境との調和と保全を図ってまいります。

基本方針

- ① 環境保全に対する目標・活動計画を定め推進し、見直しを行うことにより環境経営の継続的改善を行ないます。
- ② 当社の事業活動に適用される環境に関する法的要件事項及び協定等を遵守します。
- ③ 地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量ならびに水使用量の削減、廃棄物の排出量削減及びリサイクルについて目標を定め取組みます。
- ④ 化学物質の効率的な利用により使用量の削減に努めます。
- ⑤ 環境保全や省資源に配慮した製品の購入に心掛けます。
- ⑥ 全従業員が環境経営方針を周知し、環境に関する教育訓練を実施するとともに当社に関連する全ての人が閲覧出来る様に開示します。
- ⑦ 当社の事業活動である金属・樹脂部品への塗装を通じ、品質向上に向け取組むとともに、環境性能の向上を目指しながら、環境に優しいものづくりの推進で環境負荷低減を実現します。

制定日 2012年1月6日
改訂日 2025年5月1日



代表取締役 川崎 智之

4. 環境経営目標

4-1 中期環境経営目標(2022年度～2025年度)

2022年5月1日策定

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。

また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

①瀬戸日の出第1工場

※2021年度(2021年5月～2022年4月)実績を基準値として設定し

下記の削減目標に取り組んで行きます

※生産高は有償支給費を除いた加工費ベースで算出

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2022年度削減目標 1%	2023年度削減目標 2%	2024年度削減目標 3%	2025年度削減目標 4%
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高(百万円)	1411	1397	1383	1369	1355
		排出量(kg-CO ₂ 換算)	322868	319639	316411	313182	309953
	都市ガス使用量	m ³ /生産高(百万円)	270	267	265	262	259
		排出量(kg-CO ₂ 換算)	306122	303061	300000	296938	293877
ガソリン使用量		ℓ/生産高(百万円)	13.79	13.65	13.51	13.38	13.24
		排出量(kg-CO ₂ 換算)	17191	17019	16847	16675	16503
		kg/生産高(百万円)	1203	1191	1179	1167	1155
	二酸化炭素排出量合計	排出量(kg-CO ₂ 換算)	646181	639719	633257	626796	620334
水使用量の削減		m ³ /生産高(百万円)	14.63	14.48	14.34	14.19	14.04
		使用量(m ³)	7854	7775	7697	7618	7540
産業廃棄物の削減		kg/生産高(百万円)	246	244	241	239	236
		排出量(kg)	132019	130699	129379	128058	126738
化学物質使用量の削減		kg/生産高(百万円)	16.45	16.29	16.12	15.96	15.79
		使用量(kg)	8831	8743	8654	8566	8478
環境性能の向上	不良削減による稼働時間抑制 (再塗装に要する環境負荷低減)	H/生産高(百万円)	14.46	14.32	14.17	14.03	13.88
		工場稼働時間(H)	7767	7689	7612	7534	7456

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとする。環境目標の管理は「原単位表示値」を使用する
原単位生産高 537百万円(2021年度実績)

(注2) 排出係数：電力 0.426-CO₂/kWh 出典(中部電力ミライズ㈱2019年度(調整後)) 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³
ガソリン 2.322kg-CO₂/L 軽油 2.58kg-CO₂/L

(注3) ガソリン使用量削減については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行なう

②瀬戸日の出第3工場

※2021年度(2021年5月～2022年4月)実績を基準値として設定し

下記の削減目標に取り組んで行きます

※生産高は有償支給費を除いた加工費ベースで算出

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2022年度削減目標 1%	2023年度削減目標 2%	2024年度削減目標 3%	2025年度削減目標 4%
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/生産高(百万円)	4814	4766	4718	4670	4621
		排出量(kg-CO ₂ 換算)	217399	215225	213051	210877	208703
	都市ガス使用量	m ³ /生産高(百万円)	350	347	343	340	336
		排出量(kg-CO ₂ 換算)	78154	77372	76591	75809	75028
ガソリン使用量		ℓ/生産高(百万円)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		排出量(kg-CO ₂ 換算)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		kg/生産高(百万円)	2788	2760	2732	2704	2676
	二酸化炭素排出量合計	排出量(kg-CO ₂ 換算)	295553	292597	289642	286686	283731
水使用量の削減		m ³ /生産高(百万円)	23.19	22.96	22.73	22.49	22.26
		使用量(m ³)	2458	2433	2409	2384	2360
産業廃棄物の削減		kg/生産高(百万円)	605	599	593	587	581
		排出量(kg)	64112	63471	62830	62189	61548
化学物質使用量の削減		kg/生産高(百万円)	112.47	111.35	110.22	109.10	107.97
		使用量(kg)	11922	11803	11684	11564	11445
環境性能の向上	不良削減による稼働時間抑制 (再塗装に要する環境負荷低減)	H/生産高(百万円)	51.16	50.65	50.14	49.63	49.11
		工場稼働時間(H)	5423	5369	5315	5260	5206

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとする。環境目標の管理は「原単位表示値」を使用する

原単位生産高 537百万円(2021年度実績)

(注2) 排出係数：電力 0.426-CO₂/kWh 出典(中部電力ミライズ㈱2019年度(調整後)) 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³
ガソリン 2.322kg-CO₂/L 軽油 2.58kg-CO₂/L

(注3) ガソリン使用量削減については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行なう

4. 環境経営目標

4-2 今年度の環境経営目標(今年度は中期環境経営目標の3年目である)

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。

また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることでより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2024年度	2025年度まで
瀬戸日の出第1工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量 (kWh/生産高)	1411	3%削減	基準値(2021年度実績)に対し毎年度1%づつ上乗せして削減
		(kg-CO ₂ /生産高)	601		
		都市ガス使用量 m ³ /生産高	270	3%削減	
		(kg-CO ₂ /生産高)	570		
		ガソリン使用量 ℓ/生産高	13.79	—	
		(kg-CO ₂ /生産高)	32		
		総排出量 (kg-CO ₂ /生産高)	1203	3%削減	
		絶対値(kg-CO ₂)	646181	3%削減	
		水使用量の削減 m ³ /生産高	14.63	3%削減	
		産業廃棄物の削減 kg/生産高	246	3%削減	
		化学物質使用量の削減 kg/生産高	16.45	3%削減	
		環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制) H/生産高	14.46	3%削減	

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2024年度	2025年度まで
瀬戸日の出第2工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量 (kWh/生産高)	—	—	生産活動休止により環境計画は適用しない
		(kg-CO ₂ /生産高)	—		
		都市ガス使用量 m ³ /生産高	—	—	
		(kg-CO ₂ /生産高)	—		
		総排出量 (kg-CO ₂ /生産高)	—	—	
		絶対値(kg-CO ₂)	—	—	
		水使用量の削減 m ³ /生産高	—	—	
		産業廃棄物の削減 kg/生産高	—	—	
		環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制) H/生産高	—	—	

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

瀬戸日の出第1工場 基準年度 537(百万円)

(注2) 瀬戸日の出第1工場 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

但し、生産高は有償支給部品費を除いた加工費ベースで算出する

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂ / kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂ / m³ ガソリン 2.322kg-CO₂ / L 軽油 2.58kg-CO₂ / L

(注4) • 第2工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

• 第2工場は2021年2月末をもって生産活動を休止

• 第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

そのため、第2工場と第3工場の排出量を合算して管理している

• 第2工場は2025年1月粉体塗装ラインの生産活動を再開

4. 環境経営目標

4-2 今年度の環境経営目標(今年度は中期環境経営目標の3年目である)

※瀬戸日の出第1工場、第3工場とも2021年度実績を基準値として環境活動の推進を図ることとしました。
また、生産高の原単位は以前の有償支給部品費を含んだ合計金額から加工費ベースのみの生産金額とすることにより実情に近い金額で評価できる方式に変更しました

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2024年度	2025年度まで
瀬戸日の出第3工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量 (kWh/生産高) (kg-CO ₂ /生産高)	4814 2051	3%削減	基準値(2021年度実績)に対し 毎年度1%づつ上乗せして削減
		都市ガス使用量 (m ³ /生産高) (kg-CO ₂ /生産高)	350 737	3%削減	
		総排出量 (kg-CO ₂ /生産高) 絶対値(kg-CO ₂)	2788 295553	3%削減 3%削減	
		水使用量の削減 (m ³ /生産高)	23.19	3%削減	
	産業廃棄物の削減 (kg/生産高)	605	3%削減		
	化学物質使用量の削減 (kg/生産高)	112.47	3%削減		
	環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制) (H/生産高)	51.16	3%削減		

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

瀬戸日の出第3工場 基準年度 106(百万円)

(注2) 瀬戸日の出第3工場 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

但し、生産高は有償支給部品費を除いた加工費ベースで算出する

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂ / kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂ / m³

(注4) • 第3工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

• 第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

そのため、第2工場と第3工場の排出量を合算して管理している

5. 環境経営計画 (2024年度)

5-1瀬戸日の出第1工場 (重点取組事項は7-1項としてP13に記載)

環境経営目標を達成する為に、次の活動計画に取組みます

【目標：電気使用量を基準値の3%/年 削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ コンピューター等関係設備の工コ運転（能力設定を最適化）
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28°C設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ⑦ 暖房温度20°C設定とウォームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量を基準値の3%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の3%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

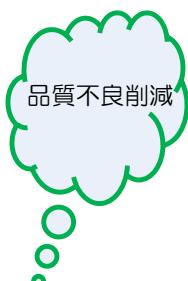
【目標：廃棄物排出量を基準値の3%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討（リサイクル出来る物を発掘）
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

【目標：化学物質使用量を基準値の3%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業（洗浄・調合）内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます。また、事業系一般廃棄物については第1工場に集積場はあるが、排出量が少量のため排出量管理を行ないます。



※環境性能の向上

【目標：不要な稼働時間を基準値の3%/年 削減 指標： H/生産高】

- ① 不良削減による稼働時間抑制（再塗装に要する環境負荷低減）

**品質不良削減を図りエネルギー使用量及び
産業廃棄物排出量の削減を推進します**

5-2瀬戸日の出第2工場

環境経営目標を達成する為に、次の活動計画に取組みます

【目標：電気使用量管理】

- ① 毎月の電気使用量を把握・監視
- ② 冷房温度28℃設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ③ 暖房温度20℃設定とウォームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量管理】

- ① 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量管理】

- ① 節水意識の高揚
- ② 毎月の水道使用量を把握・監視

第2工場は2021年2月に生産活動を休止し2025年1月より生産活動再開した。
2025年度は環境データを記録し2026年度より新中期環境経営計画
(2026年5月～2029年4月)に基づき 環境経営活動を実施する。



5-3瀬戸日の出第3工場 (重点取組事項は7-1項としてP14に記載)

環境経営目標を達成する為に、次の活動計画に取組みます

【目標：電気使用量を基準値の3%/年 削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ コンピューター等関係設備のエコ運転（能力設定をミニマム化）
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28°C設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ⑦ 暖房温度20°C設定とウォームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量を基準値の3%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の3%/年 削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

【目標：廃棄物排出量を基準値の3%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討（リサイクル出来る物を発掘）
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

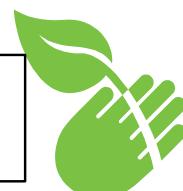
※第3工場に産業廃棄物置き場なし

【目標：化学物質使用量を基準値の3%/年 削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業（洗浄・調合）内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます。
また、事業系一般廃棄物については第1工場に集積場はあるが、排出量が少量のため排出量管理を行ないます。

品質不良削減



※環境性能の向上

【目標：不要な稼働時間を基準値の3%/年 削減 指標： H/生産高】

- ① 不良削減による稼働時間抑制（再塗装に要する環境負荷低減）

品質不良削減を図りエネルギー使用量及び
産業廃棄物排出量の削減を推進します

6. 環境経営目標に対する実績(2024年5月～2025年4月)

6-1 瀬戸日の出第1工場

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	2021年度 基準値	2022年度 実績	2023年度 実績
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂ /生産高)	電力、都市ガス、 ガソリン	1203	1007	1081
水資源(m ³ /生産高)	水道水	14.63	11.71	11.09
廃棄物排出量(kg/生産高)	排出量	246	176	193
化学物質使用量(kg/生産高)	塗料、溶剤	16.45	4.55	3.27
環境性能の向上(H/生産高)	稼働時間	14.46	11.44	10.98

注) 事業年度 5月～翌年4月

※CO₂排出係数：電力0.426kg-CO₂/kWh 都市ガス2.108kg-CO₂/m³ ガソリン2.322kg-CO₂/L 軽油 2.58kg-CO₂/L

2024年5月～2025年4月							
環境取組項目		使用量等実績	環境効率指標	目標 (3%削減)	実績	目標達成率	評価
瀬戸日の出第1工場目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量 668,367(kWh)	kWh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	1,369 583	1,245 531	9.06%削減	○
		都市ガス使用量 155,727(m ³)	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	262 553	290 612	10.69%増加	×
		ガソリン使用量 5,175(l)	l/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	— —	9.64 44	—	—
		総排出量 636,874 (kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)/生産高 絶対値(kg-CO ₂)	1,167 626,796	1,187 636,874	1.71%増加 1.61%増加	×
	水使用量の削減	6,358(m ³)	m ³ /生産高	14.19	13.73	3.24%削減	○
	産業廃棄物の削減	111,981(kg)	kg/生産高	239	209	12.55%削減	◎
	化学物質使用量の削減	5,227(kg)	kg/生産高	15.96	9.74	39.00%削減	◎
	環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)	7,477(H)	H/生産高	14.03	13.93	0.71%削減	△

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位(生産高) 百万円あたりとしています

(注2) グリーン購入の環境効率指標： 購入品目比率(%)

(注3) 基準値： 2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/ kWh(2019年度)

都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³ ガソリン 2.322kg-CO₂/ L 軽油 2.58kg-CO₂/ L

※生産高は有償支給費を除いた加工費ベースで算出

(※評価の基準)

- ◎：削減率が 10.0%以上⇒大幅に目標をクリア
- ：削減率が 1.0～10.0%未満⇒目標をクリア
- △：削減率が 0.0～1.0%未満⇒ほぼ目標達成
- ×：増加⇒目標未達

＜取組結果の評価＞

- ①上記実績の通りガスの環境効率増加に連動して二酸化炭素排出量も増加し目標未達となった
次年度より通期計画の下で4年目の経営活動を推進していく
- ②電力消費は電力料金の高騰を受け全社的に消費電力の削減に取組んだ。特に待機電力の削減に着目しインバーター制御の調整などにより効果が出ている
- ③ガス消費は第1工場2F塗装で主要顧客の新規立ち上がりが相次ぎ、特に初期流動期間での
品質良品率不安定により再生産などでガス消費が増加したことが主要因である。
- ④化学物質使用量は基準となった2021年度実績と比較しおよそ40%程度減少している。
要因としては品質良品率改善と製品1本あたりの塗料使用量削減活動等で効果が出ている。
生産高は2021年度と2024年度で同レベルであるが、化学物質使用量削減が大きく寄与
している。

6-2 瀬戸日の出第2工場

生産活動休止に伴い環境計画の適用外とする

※但し、事務所機能は継続するため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に

取組むこととする(2025年1月より粉体塗装ラインが生産活動を再開したが、2025年度は
環境経営データを確認し2026年度より全社での環境経営活動を推進する)

6. 環境経営目標に対する実績(2024年5月～2025年4月)

6-3瀬戸日の出第3工場

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	2021年度 基準値	2022年度 実績	2023年度 実績
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂ /生産高)	電力、都市ガス、 ガソリン	2788	3314	3,265
水資源(m ³ /生産高)	水道水	23.19	25.19	17.60
廃棄物排出量(kg/生産高)	排出量	605	573	790
化学物質使用量(kg/生産高)	塗料、溶剤	112.47	154.84	170.96
環境性能の向上(H/生産高)	稼働時間	51.16	65.51	69.60

注) 事業年度 5月～翌年4月

※CO₂排出係数：電力0.426kg-CO₂/kWh 都市ガス2.108kg-CO₂/m³ ガソリン2.322kg-CO₂/L 軽油 2.58kg-CO₂/L

			2024年5月～2025年4月					
環境取組項目			使用量等実績	環境効率指標	目標 (3%削減)	実績	目標達成率	評価
瀬戸日の出第3工場目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	413,384(kWh)	kWh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	4,670 1,989	3,055 1,302	34.58%削減	◎
		都市ガス使用量	38,843(m ³)	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	340 715	287 605	15.59%削減	◎
		総排出量	257,983 (kg-CO ₂)	絶対値(kg-CO ₂)	2,704	1,907	29.47%削減	◎
	水使用量の削減	4,807(m ³)	m ³ /生産高	22.49	35.53	57.89%増加	X	
	産業廃棄物の削減	58,772(kg)	kg/生産高	587	434	26.06%削減	◎	
	化学物質使用量の削減	13,897(kg)	kg/生産高	109.10	102.66	5.90%削減	○	
	環境性能の向上(不良削減による稼働時間抑制)	6,104(H)	H/生産高	49.63	45.11	9.11%削減	○	

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) 基準値：2021年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注3) 排出係数：電力 0.426kg-CO₂/ kWh(2019年度)

※生産高は有償支給費を除いた加工費ベースで算出

都市ガス 2.108kg-CO₂ / m³

(注4) • 第3工場専用の業務用車は無くガソリンは全社での使用量を管理している

• 第3工場は産業廃棄物の置き場がなく第2工場の置き場に廃棄している

• グリーン購入は全社での購入量を管理している

(※評価の基準)

◎：削減率が 10.0%以上⇒大幅に目標をクリア

○：削減率が 1.0～10.0%未満⇒目標をクリア

△：削減率が 0.0～1.0%未満⇒ほぼ目標達成

X：増加⇒目標未達

<取組結果の評価>

- ①上記実績の通り水道使用量の削減以外の項目は全て目標達成できた。
- ②今年度の目標達成の主な要因は基準年度比で27.8%の売上高増加である
新規立ち上がり製品の受注増加と既存車種の受注回復が売上高増加につながり、コロナ禍以前のレベルまで回復した。
- ③電力消費は第1工場と同様に待機電力改善と工場内電灯のLED化を進めに消費量自体は前年度比11.9%減少となっている
- ④ガス消費は事前の生産負荷検討による最適稼働活動により前年度比で16.2%の減少となっている
- ⑤水使用量の増加は塗膜保証レベル向上に向け塗装前処理工程での処理水交換頻度変更によるものであり、理由付けできる内容である。今後は2024年度実績をベースとして管理していく
- ⑥化学物質使用量は主力生産品の塗装ロボットのプログラム見直しを進め塗料使用量削減により前年度比10.8%の減少となった
- ⑦産業廃棄物は塗装ブースから排出される汚泥の含水率を削減する活動の成果で効果が出ているが設備保全(設備養生)やライン整備等から発生する廃プラスチックの排出量が大きく増加しており、重点取組事項として活動している

7. 環境経営活動取組結果の評価と次年度の取組内容

7-1 今年度の重点取組事項への評価と反省

【前年度に取り決めた重点取組事項への実績評価】

①瀬戸日の出第1工場

(※評価の基準)

- ◎：取組事項の効果が非常に有効
- ：取組事項の効果が有効
- △：取組事項の効果不十分
- ×：取組事項の効果なし

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門機関の省エネ診断受診による電力・ガス消費量削減 ・社内工程内不良による不要な稼働時間の(不良率削減) ・社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす 	△	省エネ診断については計画したが未実施に終わっているため次年度実施する。電気使用量削減は目標を達成した。ガス使用量削減は新規立ち上がり製品の初期流動期間での品質安定化が遅れたため、再生産(再塗装)に伴い焼付乾燥炉での消費増加につながり最終的に目標未達となった。
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・社内在庫(完成・仕掛け・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす ・水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携) 	○	毎日(1回/日)の水道メータ確認による検針異常に気づくなど効果あり。日ごとの使用量把握による異常を検知し対処できる様になった。9月中旬に電着ラインの冷却装置が故障し応急対応のため水道水を使用した冷却を行つたため、一時的に10月検針分で使用量が増加したが目標達成できた。
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・梱包資材(ラップ材)のリサイクル引取により廃棄物の削減を図る ・前処理汚泥の含水率削減活動による排出重量削減と処理費用削減 ・廃プラ類の排出量削減&処理費用削減 	○	ラップ材の排出削減に向け、発生源対策としてラップ材不使用を客先と協議していく。廃プラ類の排出量が前年度より23.6%増加している。各ライン整備に伴う廃棄物増加が主要因であるが、今後重点的に削減対象として行きたい。
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会での品質・生産問題・課題の早期対応により塗料使用量を削減する ・洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) ・新規立ち上げ車種の不良率早期安定化による塗料使用量削減 	◎	新規品の初期流動時の品質安定化遅れが有ったが、継続的な品質良品率改善と製品1本あたりの塗料使用量削減活動で効果があり目標を大きく達成することができた。
環境性能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会による品質・生産改善活動推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する(再塗装に要する環境負荷を低減) ・生産負荷の事前検証による「最適設備稼働」「最適人員配置」で不要な稼働時間を抑制 	○	事前に翌月の生産負荷検討が出来る様になり各ライン間での生産品目の調整、人員配置見直しにより不要な稼働時間延長を抑制出来た。更にレベルアップして次年度継続とする。

②瀬戸日の出第2工場

2021年2月生産活動休止により重点取組事項は計画しない。事務所機能は継続するため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取組む。

2025年1月より粉体塗装ラインが稼働を再開した。2025年度は環境データの確認を行い2026年度より全社での環境経営活動を再開する。

経営に寄与する「環境に優しいいいものづくりの推進」
【Q(品質)E(環境)M(経営)が三位一体となった活動】
※塗装不良削減を最重点取組みとしムダな稼働を
減らすことによって環境負荷の削減に結び付ける

7-1 今年度の重点取組事項への評価と反省

【前年度に取り決めた重点取組事項への実績評価】

(※評価の基準)

- ◎：取組事項の効果が非常に有効
- ：取組事項の効果が有効
- △：取組事項の効果不十分
- ×：取組事項の効果なし

③瀬戸日の出第3工場

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける(朝会での品質・生産改善活動の推進) ・新規品・変更品をライントライする時の電力・ガス使用状況監視 ・外部専門機関の省エネ診断受診による電力・ガス消費量削減 	◎	朝会での品質・生産改善活動の推進により電力・ガス消費とも前年度より大きく削減された。また、生産高増加に伴い環境効率指標が大きく改善できている。今年度実施できなかつた外部の省エネ診断を実施し更なる省エネ活動を進める。
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす ・水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携) 	△	2024年6月下旬より塗膜品質向上を目的に第3工場前処理の処理水供給方法を見直したため構造的に水道使用量が大幅に増加している。次年度は2024年度実績をもとに管理する。毎日の水道メーター監視により水道ハーフ締め忘れ等へ対処が確実にフォロー出来る様になり仕組みとして機能している。
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・梱包資材(ラップ材)のリサイクル引取により廃棄物の削減を図る(継続) ・塗装カス含水率低減活動による排出重量＆処理費削減(第2STEP) ・廃プラスチック類の排出量削減＆処理費用削減 	○	ラップ材の排出削減に向け、発生源対策としてのラップ材不使用を客先と協議していく。第3工場自身の産廃排出重量が前年度より大きく削減できており、生産高増加により環境効率指標が大きく改善できている。
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会での品質・生産改善活動推進により再塗装を減少させ塗料使用量を削減する ・洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) ・1本あたり塗装必要塗料重量の把握により塗料購入量の予算化で不要塗料の購入を抑制 ・専門業者によるロボットプログラム改修の優れたところを他の塗装プログラムへ横展 ・塗装プログラム ティーチングユニット導入によるプログラム改善 	○	主力生産品の塗装ロボットのプログラム見直しを進め塗料使用量削減により前年度比10.8%の減少となった。今年度導入した塗装プログラムティーチングシステムの活用により自社内でのプログラム見直し活動を一層進めて化学物質使用量の削減を図っていく。
環境性能の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会による品質・生産改善活動推進により再塗装を減少させ稼働時間增加を抑制する(再塗装に要する環境負荷を低減) ・生産負荷の事前検証による「最適設備稼働」「最適人員配置」で不要な稼働時間を抑制 	○	事前に翌月の生産負荷検討が出来る様になり各ライン間での生産品目の調整、人員配置見直しにより不要な稼働時間延長を抑制出来た。更にレベルアップして次年度継続とする。



7-2 次年度(2025年度)の活動計画

次年度は今年度の活動をベースに継続して改善を進めて行きます
下記に今回の取組結果の反省を基に次年度の重点取組事項をまとめました



① 瀬戸日の出第1工場

取組項目	次年度の重点取組事項 (青文字は次年度新規取組み)
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 外部専門機関の省エネ診断受診による電力・ガス消費量削減 社内工程内不良による不要な稼働時間の(不良率削減) 社内在庫(完成・仕掛・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす
水使用料の削減	<ul style="list-style-type: none"> 社内在庫(完成・仕掛け・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす 水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携)
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ラップ材(梱包資材)の排出削減に向け、発生源対策としてラップ材不使用を客先と協議する 前処理汚泥の含水率削減活動による排出重量削減と処理費用削減 廃プラ類の排出量削減&処理費用削減
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 朝会での品質・生産問題・課題の早期対応により塗料使用量を削減する 洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) 新規立ち入り車種の不良率早期安定化による塗料使用量削減
環境性能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝会による品質・生産改善活動推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する (再塗装に要する環境負荷を低減) 生産負荷の事前検証による「最適設備稼働」「最適人員配置」で不要な稼働時間を抑制

② 瀬戸日の出第2工場 重点取組事項は計画しない

2025年度内の稼働実績を評価し2026年度より実施の計画を行う

③ 瀬戸日の出第3工場

取組項目	次年度の重点取組事項 (青文字は次年度新規取組み)
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける (朝会での品質・生産活動改善の推進) 新規品・変更品をライントライする時の電力・ガス使用状況監視 外部専門機関の省エネ診断受診による電力・ガス消費量削減
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 社内在庫(完成・仕掛け・素材)把握の精度レベルアップにより不要な生産をなくす 水道検針量異常発生時の監視と対応迅速化(関係部署連携)
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ラップ材(梱包資材)の排出削減に向け、発生源対策としてラップ材不使用を客先と協議する 塗装カス含水率低減活動による排出重量&処理費削減(第2STEP) 廃プラ類の排出量削減&処理費用削減
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 朝会での品質・生産改善活動推進により再塗装を減少させ塗料使用量を削減する 洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) 1本あたり塗装必要塗料重量の把握により塗料購入量の予算化で不要塗料の購入を抑制 ・塗装プログラム ティーチングユニット活用による自社での塗装プログラム改善
環境性能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 朝会による品質・生産改善活動推進により再塗装を減少させ稼働時間増加を抑制する (再塗装に要する環境負荷を低減) 生産負荷の事前検証による「最適設備稼働」「最適人員配置」で不要な稼働時間を抑制

8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無

(1) 関連法規制等への対応

各環境関連法規制については「遵守確認チェック表」を作成し法令等の改正及び遵守の確認を行っています。遵守状況に不具合が有った場合は「是正処置・予防処置報告書」を発行し、処置の実施及び確認をする仕組みを取っています。

法律条例等の名称	当社の対応状況	第1工場	第2工場	第3工場
水質汚濁防止法	塗料庫(指定施設)での事故(設備破損等による地下への汚染)発生時に届出義務あり	○	○	○
騒音規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○	○
振動規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○	○
廃棄物処理法	産業廃棄物の適切な処理保管、マニフェストによる管理を行なう	○	○	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出(1回/年)及び蛍光灯等の水銀廃棄物に関する適切な処理	○	○	○
下水道法(市条例)	瀬戸市下水道条例に基づき排水の処理管理を行ない定期的に報告を行なう	○	/	○
特定化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)(愛知県条例を含む)	化学物質使用量(第1種指定・特定第1種指定)の把握及び関係当局への報告(1回/年)	○	/	○
毒物劇物取締法	指定物の使用状況の把握及び貯蔵状況の確認	○	/	○
消防法(瀬戸市火災予防条例)	法に基づき乾燥設備・変電設備・少量危険物貯蔵庫(塗料庫)の点検・報告・届出を行なう	○	○	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則に定める基準を順守し検査を行ない記録(健康診断・作業環境測定等)を管理及び化学物質リスクアセスメントの実施	作業環境測定 健康診断 リスクアセスメント	ロボット塗装により非該当 ○	ロボット塗装により非該当 ○
フロン排出抑制法	法令点検(専門家による3年毎点検)及び簡易定期点検(自社3ヵ月毎点検)の実施と記録の保持	○	○	○
環境配慮促進法	事業活動に関する環境情報を外部に開示する	○	○	○
瀬戸市環境の保全及び創造に関する協定	環境保全計画書に締結した内容に基づき環境法規制を遵守する	○	○	○

遵守確認については環境管理責任者が実施致しました。本確認以降は必要に応じ改正内容の有無確認を行っており法規制及び条例等への違反事項はありません。

(2) 違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に関する環境関連法規制及び対応状況は上記関係法規を含め全て遵守しています。
第1工場は2023年10月頃、隣地より臭気、一部塗料ミスト飛散に関する苦情が寄せられましたが、早期に対策を行いこれ以降の苦情はありません。
第2工場は2021年2月より生産ラインの稼働を休止継続しており苦情はありません。
第3工場は2017年の試験操業以降、関係各機関からの違反、告訴等ありません。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

(1) 適応性、妥当性、有効性の確認

2024年5月から2025年4月までの当社(瀬戸日の出第1、第2、第3工場)の環境活動の結果を管理責任者より報告を受けました。当社は瀬戸日の出全工場でEA21認証登録及び今年4月にSDGsへの登録を行い社員の環境意識の高まりにより活動が浸透して参りました。

尚、第2工場は2025年1月より粉体塗装ラインの生産を再開しています。2025年度は環境経営データの把握を行い2026年度より第2工場を含めた全社での環境経営活動を再開する予定です。

<瀬戸日の出第1工場>

- ①顧客からの受注動向に対して事前に全ラインを対象とした生産負荷検討を行なう仕組みが軌道に乗り各ラインの稼働予測、人員配置確認、生産品目の振り分け等を行なう稼働最適化の体制が強化された。
不要な生産の排除、無駄な設備稼働に伴うエネルギー削減を継続する(SDGs活動取組テーマ)
- ②電力消費削減については待機電力削減で一応の成果を得られた。今後は省エネ診断の受審を切口として更なる改善活動を進めてほしい。次年度は、「節ガス」への取組みも強化する。
- ③産廃の中で「廃プラスチック」類の排出削減が重要になっている。全社活動として削減に取り組んで行く。
- ④水道使用量については日々の実績チェックにより異常を検知できる様になったので、体制を維持し異常時への早期対応ができる仕組みを構築し改善していく(次年度継続)

<瀬戸日の出第2工場>

- ①環境計画の適用外とするが、事務所機能は継続しているため光熱費関係の数値は管理して無駄な使用の削減に取組む
- ②2025年1月粉体塗装ラインの生産再開により、2025年度は環境経営活動データの把握・監視を行う
新中期環境経営計画が開始する2026年度より全社対象での環境経営計画に基づき活動を再開する

<瀬戸日の出第3工場>

- ①生産高増加により環境効率指標が向上し計画への達成度が改善している。今後の活動として昨年導入した塗装プロセスミュレーションシステムの活用を進め、製品良品率改善により環境負荷低減を進める
- ②第1工場と同様に「廃プラスチック」類の排出削減に全社活動として取り組んで行く

<今後の全社展開について>

前年度に発生した第1工場近隣からの環境クレームに現れている様に設備関係への適切なメンテナンス維持は特に重要である。再発防止は当然のことながら、来年度は特に設備保守関係に注視しながら環境維持を務めて行く。また、SDGsへの登録を完了しており社員全員が更なる環境への取組み意識の向上を実感できる様活動を進める。

(2)代表者による指示事項

指示日 2025年6月27日

代表取締役 川崎 智之

変更の必要性の有無・指示事項

【環境経営方針について】

- ・2024年5月～2025年4月の活動結果を基に達成状況を確認の上、次年度の重点活動事項を明確にすること
- ・2024年度の重点取組事項への評価と反省を行ない活動を見直すこと

変更の必要性：□有 無

【目標・環境経営活動計画について】

- ・瀬戸日の出第1工場

外部機関の省エネ診断を受審し診断結果を切口に改善を進める
産廃関係では「廃プラチック」類の排出削減に注力していく(製造部と保守保全係が柱となって全社展開で進める)

- ・瀬戸日の出第2工場

粉体塗装ラインの再開により、2025年度は環境経営データの把握・監視を行い、2026年度より全社での環境経営計画に基づく活動を再開する

- ・瀬戸日の出第3工場

塗装工程の良品率向上を第一に進め、再塗装に伴う稼働時間、稼働エネルギー、塗料使用量削減を進める。
昨年導入した塗装プロセスコミュニケーションシステムの有効活用により良品率向上を推進すること。また、外部機関の省エネ診断を受審しその結果を切口に改善を進める。

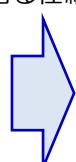
変更の必要性：□有 無(レベルアップ)

【環境経営システムの各要素について】

- ・「会社経営に寄与する活動としてほしい」

2025年度(R7年度)会社方針かけふ活動(利益の出る仕組みづくり)

- ・卒先垂範(人の先に立ち模範を示す)
- ・標準化教育の徹底(製造プロセスの監視)
- ・かけふ活動(稼ぐ削る防ぐ)…前年度より継続



「かけふ活動」と連携した環境経営活動の推進

変更の必要性：□有 無

